

地震が起こるのは、地下のどういう所なの

地下で断層ができたときに起こる

地球の内部は、かたい岩石でできていて、この岩石を岩ばんといいます。地震は、どこにでも起こるものではありませんが、地震のよく起こる所では、岩ばんの中におしつける力や、引っ張る力、横にずれようとする力などが、はたらいています。

このような力が、長い間に少しずつたまっていくと、ゆがみが大きくなったり、一気に岩ばんに、割れ目が走ったりして、岩ばんがずれていきます。このずれを断層といい、岩ばんの中に、断層ができるときに、地震が起こります。地震が起こるのは、陸地や海底からの深さが、700キロメートルぐらいまでの所です。そして、動いたことがある断層を、活断層とよびます。

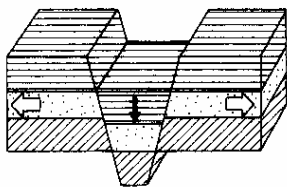
断層にはいくつかの種類がある

地震が起きる原因になる、断層には、いくつかの種類があります。岩ばんに、引っ張りあう力がはたらき、たえられなくなって、割れ目ができたときには、一部が下に落ちるために、地震が起こります。このような断層を正断層といいます。

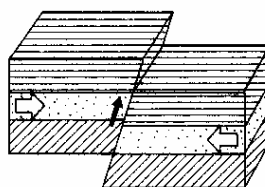
また、岩ばんに、おしあう力がはたらき、たえきれなくなって、割れ目ができたときには、一方がはね上げられるために、地震が起こります。これを逆断層といいます。

(監修・国司 真)

正断層



逆断層



横ずれ断層

